

日本工業大学通信

発行所 日本工業大学 埼玉県南埼玉郡宮代町 郵便番号 345
電話 04803 (2) 3251 (代) 印刷所 久喜町 スズキ印刷

校章の由来
この図柄は日本工業大学の日と工の字を組合せたもので、この学園のモットーである誠実、明朗、勤勉を色彩で表現している。即ち白色が誠実、ブルーが明朗、黒が勤勉で色調も工科系にふさわしい。
デザイン 野中政尚氏



若き学徒に期待する

学長 小野健二

現在わが国が世界にその比をみない高い経済成長を続けつつあり、米国、ソ連につぐ経済力を見た国家の一つとしての地歩を固めていることは周知の事実である。

この経済発展をもたらしたものは、戦後、とくに昭和三〇年以後の工業生産のめざましい発展によるものである。「松原遠く消ゆるところ」とうたわれた海岸には、白亜の石油化学コンビナートが偉容を誇り、黒部の秘境には巨大なダムと水力発電所が生まれ、また、東京、大阪間をはじめ全国がハイウエーと新幹線の網の目に結ばれようとしている。

一九七〇年代を迎え、わが国が真の先進工業国たらしめるためには、自ら高い技術を開発し、世界を主導して行く能力をもち、それによる工業発展を実現することが強く要請されているのである。

現場に定着させることができるとの信念をもち、独自の教育体系を確立すべく日夜努力してきた。

工業化時代の今日、華やかな脚光をあびている工学も実際は地味な学問である。夢多き若い学徒諸君はともすれば、既成の学問体系を否定したり、いきなり新しい何かを求めようとする傾向があり、さらに大学生イコール研究者と考える者も多いが、これは大きな誤解ではなからうかと思う。

本学はこのような社会的要請を背景に、従来の工業大学教育がわが国工業技術の真の発展のために不十分な面を多くもっていたという反省のもとに、真に工学を志し、工学に生きんとする有能な技術者を育成すべく設立された新しい大学である。

本学がとくに目指す点は「創造力と実務能力をともにそなえた誠実にして勤勉、明朗な学徒の養成」にある。具体的には従来断絶しがちであった工学理論と生産技術を直結させることであり、すでに基礎的技術をもち強い工学探求の熱意にもえる若人を迎えるに、その上にさらに高い工学教育を施すことである。これにより、現場に立脚した工学理論の探求が初めて可能になり、また開発された工学理論

を現場に定着させることができてきた。

世間には大学の設立の古さのみを基準にその価値を判断しようとする考えが根強いが、私は大学の価値は単なる虚名によってではなく、その教育体系とそれを常に反省しより正しいものを求めて行く姿勢の如何によって評価されるべきであると考えている。その意味で工学探求の熱意に燃える若い諸君たちが、この全く独自の技術教育の新しい皮袋に醸成されて、ふくいくとした香気をはなつ美酒となってくれることを期待したい。

もちろん、夢も希望も大きくもたなければならぬが、まず、大学は研究のしかたを学び、そして果立つところであり、また基礎的な知識と既成概念を知ることによってのみ、未来における創造の花が大きく開くことを知って欲しい。学生諸君は、まず、地道に努力をし、基礎的な既存の体系を系統化するために全力を傾注してもらいたいと思っている。そのような基盤の上に、諸君たちが新しい時代の新しい技術者として大きく育ち工学の探求と普及のために

雄飛してくれることを心から期待するものである。

昭和四十五年度

学年暦

入学式
新年度開始
四月十日(金)
入学式
四月十一日~四月十四日
オリエンテーション
四月十五日(水)
授業開始
四月十六・十七日
身体検査・レントゲン
六月二十九日(月)
学園創立記念日
七月十一日(土)~九月三日(木)
夏季休暇、学外実習
九月十八日(金)~九月三十日(水)
前期末試験
十月六日(火)
後期授業開始
十月下旬
前期成績発表
十一月初旬
学園祭
十二月二十二日(火)~一月九日(土)
冬期休暇
二月三日(水)~二月十三日(土)
後期末試験
三月二十五日(木)
学園創立記念日
三月二十五日(木)
卒業式

の工業発展の大部分は自ら開発した技術によってなしとげ

るごとく、大学もその目標に従って、年々新たな年輪を加えて行くべきものであると考える。

もちろん、大学も可能な限りにおいて施設、設備等の充実には最善の努力を傾注して行くことはいうまでもないが、学生諸君は、ぜひ、本学の目指すところをよく理解し、勉学に励んで欲しい。

卒業式

卒業式

教育課程の改訂について

昭和45年度カリキュラム変更の概要

かねてより懸案であったカリキュラム改訂の動きが、昨年の夏を期して、教養科・専門科とも一斉にその具体化をめざして歩みを進め、慎重に検討を重ねた結果、ついに45年度より新教育課程の発足をみるにいたった。

この改訂の主旨は、あくまで学生諸君の個性の伸長をめざし、将来の可能性を最大限に發揮させることを目的としたものであり、端的に言っていわゆる多様化の理想を求めたものにはかならない。従って、従来の必修科目は最少限にとどめ選択科目を大巾に設けたことがいちじるしい特徴となった。各科の改訂の要点はつぎのとおりである。

◇教養科目について

本学では、開学以来、広い意味での文化財を愛し、自己を見失わず個性にあふれ、豊かな感性をそなえた巾広い技術者の育成をめざし、初年次より四年次にわたる教養課程を設けてきた。他大学においては、ややもすると専門的研究のみを偏重する傾向が見られるが、本学に於てはその弊を一掃するよう努力が続けられている。

◇数学について

数学は工学に不可欠の学問で、未来の技術者にとってその重要性はますます切実となる。この認識の上に、次のように改訂することとなった。

一般教育科目は、数学演習と線形代数それぞれ二単位(各学科必修、一年間)からなり、前者は数学一般とくに解析学を学ぶための基礎を養い、後者は行列、ベクトル空間を中心として扱う。

基礎教育科目の微積分学

I、II、IIIはそれぞれ二単位(各学科必修)を一学期ごとに修得するものとする。ただし、II(III)を履修するためにはI(II)を修得しておく必要がある。内容は一変数、多変数の微積分学および基礎的な微分方程式である。微積分学IVの二単位(一学期間、電気工学科必修)は微積分学の進んだ分野を扱い、IIIを修得した上で履修するものとする。

次に、三年次または四年次で、統計学、関数論、数学特論A、数学特論B(各四単位一年間)を選択履修することができる。ただし、数学特論A、Bはそのうち一つだけが修得単位として認められる。

◇物理学について

従来一年次のみで、実験・演習を含めて四単位であったものを、講義・演習を二年次にまたがって行ない、通算して四単位とした。

◇外国語について

産業・技術の国際化は日を追って進み、新しい技術者にとって外国語の能力はますます要求されることとなり、つぎのように改訂される。

○英語——二年次生以上に、「英会話」「基礎英語演習」三年次生以上に「時事英語演習」の選択科目を設けた。

○ドイツ語・フランス語——従来、一年次生は二単位であったものを、新たに二単位増加し四単位とした。

◇機械工学専門

科目について

機械工学科目は応用範囲が広く全てを修得することは仲々むづかしい。従来本学では大別して生産技術に興味を持つ者と一般機械に興味をもつものに分け標準コース毎に標準科目を履修するようにした。しかし工業技術は高度化し、世の中は真に開発能力あるエキスパートを要求するに至った。そのためには自分の興味ある分野で自己の能力を十二分に發揮するために、自ら得意としかつ興味ある科目を責任をもって選び、自主的に自己を啓発することが必要となった。そのために従来に比し極端に必修科目を減らし選択科目を増大した。勿論生産、一般機械のいずれかの特微づけを希望する者の便利の

ために科目の標準的系列を示してはあがるが、時間割を見て履修できる科目を選ぶことは自由である。

ただ過去3カ年の諸君の学習態度をみると、工高時代の習慣より脱却できずに追試を期待している者が多い。しかし今後は必修科目が非常に少なくないのであえて追試をする必要がないわけである諸君の得意とする方向に自らを開拓し、自信ある技術者となるよう心がけて貰いたい。

◇電気工学専門

科目について

電気工学科では、これまでの経験から学生諸君が一層無理なく、学習効果をあげられることをカリキュラム改正の目標とし、これを実現するために次のような方針をとった

(1) 学生諸君の自学自習の時間をふやすために学科目の整理統合をした。

(2) 全体的に見て最も適当であるように学習の時期と順序の変更を行った。

(3) 入学年次の専門科目は極めて基礎的なものに限り、その後の学習効果を充分にあげられるようにした。

(4) 実験には各コースの特徴をとり入れそれぞれの専門科目で修得した理論を確実に理解出来るように配慮した

学生諸君は以上の主旨をよく理解し、さらに勉学の実をあげることを希望する。

◇建築学専門

科目について

建築学専攻の卒業生は、卒業後実務2カ年で一級建築士受験の資格が得られる。建築士になるためには、各教科について満遍なく単位を取得する必要があるが、本学建築科においては学生の自主的な選択を尊重して、必修科目をできるだけ制限して少くした。従って必修科目だけでは卒業できないし、建築士を受験するのに不便である。しかし建築士の資格をとることだけが万能ではないから、高学年になって設計に主体をおくコース、構造に主体をおくコースなどを選択できるようにした。本学は工業高校の卒業生を主たる対象に考えているので、一年次より専門科目をいれて、一般教育を四年間に振りわけていのが特色であるが、特に製図は間をおいてはならないので、一年次より力を入れていく。しかし一般的に工業高校の卒業生は数学など基礎科目の力が弱いから、この方面の力を補うことができればというように四年次まで関連の科目を学習できるように考えられている。

小野健二学長
非鉄金属材料について研究

一般教養・保健体育・外国語

△一般教養▽

平野智治教授(数学)
数学教育について研究

山田国親教授(物理学)
地形による降水および風への影響について研究

中谷太郎教授(数学)
数学教育について研究

奥佳元一教授(数学)
代数学、非可換代数とガロアの理論について研究

石川 湧教授(文学)
フランス文学について研究

竹内淳彦助教授(地理学)
工業地域、都市地域について研究

木村哲三助教授(数学)
代数幾何学について研究

中馬悟朗専任講師(数学)
微分幾何学について研究

西田英郎専任講師(数学)
応用数学および数学教育について研究

鈴木一良専任講師(物理学)
原子核構造の理論的研究

清島達郎専任講師(物理学)
原子核構造の実験的研究

平林重次郎専任講師(数学)
代数学について研究

(非常勤講師)
吉田 寅(歴史)

岡本鋪輔(法学・経済学)
針尾清人(哲学)
山下袈装男(社会学)

山口誠一(数学)
橋爪浅治(数学)

宮沢哲郎(数学)
池田貞雄(数学)

荒井哲男(物理学)
土屋 清(物理学)

中田良雄(物理学)
松田 昂(物理学)

西 久夫(化学)
野平博之(化学)

市川直晴助教授
陸上競技、古代体育につき研究

小林 勉専任講師
体操競技、トレーニング論について研究

佐藤文一教授(英語)
英・米の古詩歌につきその民謡詩態の特質を研究

土井義信教授(独語)
ハインリッヒ・ハイネの生涯とその作品の研究

古沢謙次助教授(独語)
現代ドイツ文学について研究

川副富男専任講師(独語)
F・カフカなどドイツ現代文学について研究

神島一郎専任講師(英語)
日英両語の比較研究

伊藤 隆専任講師(英語)
シェイクスピアなど英国戯曲、英文学につき研究

大塚賀弘専任講師(英語)
英国近代小説につき研究

(非常勤講師)
鈴木彦四郎(英語)

木村岩蔵(独語)
山崎八郎(独語)

森 淑仁(独語)
大木吉甫(仏語)

松本 繁(仏語)
清原道寿(職業指導)



内燃機関、空気圧縮機等について研究

長谷川一郎教授
工作機械について研究

日正義雄教授
治工具、工作機械、計量器等の設計製作研究

小林和雄教授
工業計測、プロセス計装と制御、水力タービンと蒸気原動機について研究

長田重慶教授
精密測定、歯車の設計

大川陽康助教授
塑性加工についての研究

漆原富士夫助教授
金属材料(鉄鋼)の研究

小高寿夫専任講師
荷役運搬についての研究

鈴木 昭専任講師
自動車能機械の試作研究

玉木 保専任講師
材料力学について研究

(非常勤講師)
杉本安次郎(工業材料)

川島忠雄(機械力学)
松村英一(鑄造工学)

稲垣道夫(熔接工学)
名取五郎(実験工学)

伊藤保太郎(工場経営)
大場次郎(材料力学)

熱田友二(工學材料特論)
島野光司(空気調和)

横内竜雄(品質管理)
田村伸二(プラスチック工學)

教育実習
長谷川 淳(教科教育法)

機械工学科
吉田 衛教授

電氣工学科
進藤幸三郎(電波工学、無線通信工学)

岡本保雄教授
電氣機械、特に誘導機の特珠使用法の研究等

宗宮知行教授
電機用刷子、摺動接触の電氣的現象の研究

神谷六郎教授
電子通信工学、特に回路網の構成、設計理論研究

高木末夫教授
電子工学、電子回路および電子応用計測、医用電子機器等について研究

高橋幸人教授
電磁機器理論と設計研究

武政隆一教授
直流機のブラシ関係、整流障害、交流整流子電動機の整流等の研究

大原儀作教授
電氣材料、水晶の結晶、セラミック材料の研究

中道一郎助教授
抵抗材料の研究等

大久保勝弘助教授
電氣摺動接触現象、電氣機械の整流現象の研究

石坂 武専任講師
赤外線加熱に関する研究

広瀬治男専任講師
半導体素子の破壊及び熱効果半導体の物理現象と回路応用研究

高橋篤夫専任講師
電氣材料、接点開離時の各種放電現象の研究

(非常勤講師)
進藤幸三郎(電波工学、無線通信工学)

高橋克則(送配電工学、高電圧工学)

鈴木 務(電子機器学、情報理論)

大岡松男(音響工学)

北川 節(電子計算機)

佐藤允克(電波法規)

藤岡通夫教授
建築史等について研究

伊藤 甫教授
都市計画等について研究

塩原正典教授
角型鋼管構造等について研究

三苫正光教授
都市の公共建築、都市住居の設計等について研究

木村蔵司教授
特殊コンクリート等について研究

宮坂修吉助教授
住宅等について研究

西 和夫助教授
日本建築史等について研究

難波恒夫助教授
H型鋼部材等について研究

高橋 恒助教授
公共建築物の設計計画等について研究

(非常勤講師)
柳瀬 駿(電氣設備)

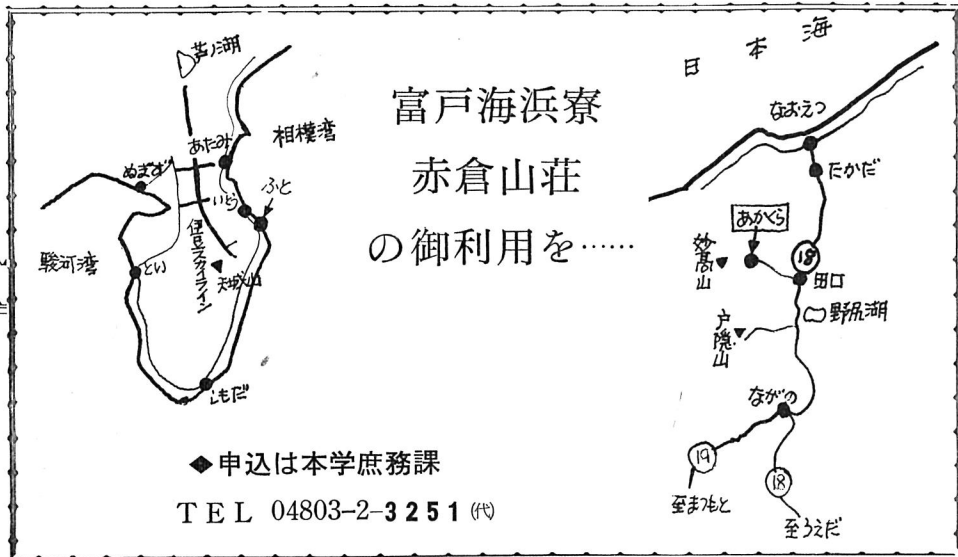
鈴木昌道(造園学)

竹内一雄(測量)

★富戸海浜寮

伊豆半島の東海岸に位置し伊豆の山々を背景に紺碧の海がひろがる。磯釣に、海水浴にドライブコースの宿泊所に、みかん狩りにどうぞ……。

- 所在地：静岡県伊東市富戸払海岸
- 交通：東海道線伊東駅よりバス八幡野行き40分払海岸下車
- 宿泊費 卒業生・父兄 750円
学 生 650円
(1泊2食付)



☆赤倉山荘

妙高の山々が雄大にそびえ、高原の風は涼しい。冬には変化にとんだスロープが展開しスキーのメッカとなる。避暑に、登山に、スキーにどうぞ

- 所在地：新潟県中頸城郡妙高原赤倉下車
- 交通：信越線、田口駅下車バス（赤倉温泉行）赤倉温泉下車
- 宿泊費：卒業生・父兄 750円
学 生 650円
(冬期は共に100円増)
(1泊2食付)

人事

任用

昭和四十四年四月一日付

◆教養科・教職課程

- 教授 高見 清 (数学)
- 教授 石川 湧 (文学)
- 助教授 和田 敏一 (心理学・教育心理)
- 講師 平林重次郎 (数学)
- 助手 酒井 誠

◆非常勤講師

- 助手 田中美智子
- 山下袈裟男 (社会学)
- 吉田 寅 (歴史学)
- 鈴木彦四郎 (英語)
- 木村 岩蔵 (独語)
- 山崎 八郎 (独語)

◆機械工学科

- 森 淑仁 (独語)
- 土屋 清 (物理学)
- 松田 昂 (物理学)
- 池田 貞雄 (数学)
- 助教授 漆原富士夫 (金属材料)
- 講師 玉木 保 (材料力学)
- 助手 寺島 幸雄

◆電気工学科

- 助手 宮沢 肇
- 助手 渡辺 高幸
- 非常勤講師 田村 伸二 (プラチック)
- 横内 竜雄 (品質管理)
- 島野 光司 (空気調和)
- 助手 泰野 正規
- 助手 高木 幸男
- 助手 佐伯 正盛

◆建築学科

- 助手 日下部 岱
- 非常勤講師 佐藤 允克 (電波法規)
- 北川 節 (電子計算機)
- 教授 木村 蔵司 (構造材料)
- 助手 福田 成一
- 助手 波多野純一
- 助手 浅井 賢治

◆事務職員

- 非常勤講師 鈴木 昌道 (造園学)
- 学生部学生課 松永富士子
- 総務部庶務課 細井知江子
- 須田 君子
- 鈴木 正
- 図書 館 小山不二子

昨年七月、第八回国際ME学会がシカゴで開催されたが、その際私の提出した研究論文が学会の論文委員会で採択され、演題として発表出来る運びとなった。

本学の出張命令も出たのでこれに出席し、また学会終了後米国の幾つかの都市を廻りME研究の現状を視察し、来た。

MEとは、Media Electronics の頭文字で、理工学では電子工学をはじめ理工学的な手法を医学分野に適用する研究や技術を意味するものとして用いられている。今回発表した研究成果の内容は、ここには割愛させて頂くが、以下旅行と見学の思い出を簡単に報告させて頂く。

この学会は二年おきに世界の主要都市で開催されており、一九六三年ベルギーでの学会に参加した後で米国の行く筈の予定を変更し、そのためアメリカ旅行は今回がはじめてである。

学会の終了後は一人旅であったので、三週間余りの忙しい日程ではあったが、汽車にも乗りバス旅行も取り入れ出来るだけ変化に富んだスケジュールを選んで出発した。

シカゴ滞在中には、人類がはじめて月面を歩行するなどの大ニュースもあり何とか思い出を刻明に記録しておきたいと考え、一冊の大学ノートに日々のお出来ごとや見聞したことを書込んでゆくことにした。学術的な資料類は別として、旅行の記念になるものはどんどん頁の所要所に貼付けた。ここ

米国旅行の思い出

国際 ME 学会に出席して

電気工学科教授 高木末夫



員からの寄稿のおすそめに従い、その記録の中からヒューストンでの見学の思い出を綴ってみた。ヒューストンは、アスト

ろが最後には、その厚みは二五耗にも達したが、これは私の思い出として永く残る事だろう。今回本学ニュース編集委

ロドーム野球場とNASAで有名なところだが、その野球場から教知都心の方に寄った地区に、Texas Medical Center と呼ばれている医学関係大学の大集団(その数は二十もあろうか)がある。私は八月四日その大学群の一つ Baylor Univ. College of Medicine の生物医学研究室にBark教授をおたずねし、お昼をはさんで四時間余りも御厄介になった。

最初にここでの研究概要の説明をお聞きし、色々なME研究の設備やBiomedical Engineering Science を学ぶ学生のための、実験器材等を見せて頂きながら教育の方法などお聞きした。あなたは、特にどんな部門を見たいかと言われたので、ME関係の計測に興味があると答えた。それなら

この大学よりも、お隣りの女子医科大学の方が設備も新しいしよく整っているからと、電話で都合を聞いて

下さったところOKとの事で、教授も一緒に見たいと私を案内された。一渡り見学した後二人揃って手術衣に着替え、手術室にまでも入って、ME機器が実際に使われているところを見学させて頂いた。

さすがに色々と工夫のこらされた新しい計測の方法をみて勉強になった。見学も終り再び教授の部屋に戻って、私の一人のために長時間御迷惑をおかけした事を深くお詫びしたところ、若し、またわたしは日本を訪問したとしたら誰かにお世話になることでしょう。

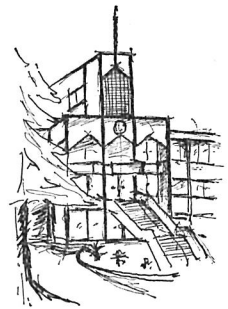
お互い様ですからと気軽に答えられ、車で私をホテルまで送って下さった。

このように八月四日は実に良い思い出の日となったが、旅行中こんなに恵まれた日はばかり続く筈もなく、時には不愉快な出来事もあった。然しそれは自然と記憶が薄れ、よい事が後に強い印象として残るのは誠に幸いである。

志願者都県別一覧 (除附属工高)

- 北海道24、青森25、岩手11
- 宮城23、秋田15、山形18、福島26、茨城29、栃木29、群馬21、埼玉83、千葉64、東京342
- 神奈川46、山梨16、新潟27、長野35、富山10、福井4、石川4、静岡48、愛知9、岐阜3、滋賀1、京都4、大阪7
- 奈良2、和歌山7、兵庫4、岡山26、鳥取12、広島8、香川7、高知3、愛媛5、福岡2、佐賀6、長崎2、熊本5
- 大分1、宮崎6、鹿児島12、沖縄5、徳島4、山口4、タイ国1

大学生活への招待



諸君たちはいま人生の大きな転換点に立っている。それは単にこれから大学生活を迎えるということだけではなく日本工大という特色ある大学の門をくぐったということである。

◇自分でじっくり考え行動
ドイツの詩人 R・リルケに『マルテの手記』という物語がある。ある男が、自分に残された一生の長さはどれだけか秒に換算して確かめてみようとする。計算に強いはずの工科系諸君のことであるからかりにあと六十年生きるとすると、それが十八億九千三百万秒になることはすぐわかるだろう。その男は、まだたっぷり貯金があると安心して一週間すがすがすが、はて一週間では何秒費やしたことになるのだろうかとまた計算してみる。なんとそれが、六十万四千八百秒。その男はなにかだまされたような気持になって頬をかすめる風のように一秒

しよ
大学生は高校生などちがいに、全く独立した社会人として扱われている。服装も比較的的自由であるし、酒を飲み、煙草を喫っても文句をいう人はいない。勉強してもしなくても高校の時のようにうるさくも言われない。しかし、何も言われないということは無責任でよいということではない。端的に言えば何事も各自で判断して決め各自が責任をもつということである。
「大学で授業に出る奴は馬鹿だ」と先生や友人に言われ授業をサボリ、その結果留年し、あわててもだれも保障し

たりに助けてはくれない。
◇アドバイザーグループを活用しよう
「自分で決めろ」などと冷たいことを言ったが、その前にいろいろ相談することは効果がある。本学のアドバイザーは別紙で説明したように高

校の担任とは異なり、学生の自主的な相談の相手、窓口である。だから、自分から動かなければ何も役立たないし、利用すればその価値は大きい。アドバイザーやその他の先生にどしどし相談し、自分の考えをより着実な大きなものにして欲しい。
◇よい友人を持つよう
われわれ自身をふり返ってみると、大学時代に友人と話しあったことが今日の自分の考えに大きく影響していることに気付く。北は北海道から南はタイ国まで、諸君達はいろいろの風土に育った、個性豊かな友人を持っている。そういう人の中から夜を明

かして話したり、山や海に遊んだりしながらもぜひしっかりと友人を見つけてもらいたい。よい友情は若いうちにはぐくんでおきたいものである。
◇社会のルールを守るよう
最近、既成秩序を全て否定しようとする人々がいる。また一般的に古いものは否定されようとする傾向にある。しかし、よい習慣、生活のルールは是非守り、そのことにより明るい社会を保ちたいものである。先生への挨拶、先輩後輩の言葉づかい、日常の生活態度など、礼儀、ルールはぜひ守り、守りながら新しいものを生み出すように努力してもらいたい。

ば、その分だけ良い書物が読めなくなるということでありまた何者かに諸君の貯金がかすめとられていくことにもなる。諸君の時間を浪費してしま

て九十九種の洋雑誌が購入されている。無数の書物の中から選び出された、これらの書物や雑誌が開架自由閲覧制にもとづいて諸君の利用に供されているのである。雑誌の中には、各専門の研究室に配置されていて、図書館の書架では見あたらないものもあるが、どのような雑誌が入っているのかを知るため

には、まず備付の目録をめぐって調べてみるのがよい。また雑誌に限らず、単行本の中から目指す書物を選び出すことも目録カードは非常に便利である。例えば先にあげたりル

くは言われない。しかし、何も言われないということは無責任でよいということではない。端的に言えば何事も各自で判断して決め各自が責任をもつということである。
「大学で授業に出る奴は馬鹿だ」と先生や友人に言われ授業をサボリ、その結果留年し、あわててもだれも保障し

図書館だより

図書館利用のすすめ

まわぬよう大いに図書館を利用していただきたい。
本学図書館には、現在、専門、一般あわせておよそ一万余冊の書物が集められてい



世界の注目を集めて万国博が大阪で開催中である。夏季休暇等を利用して見物に行く諸君も多いと思われるので、ここに万博民宿を紹介する。京都見物、湖での水泳等にも最適である。
場所 滋賀県滋賀郡志賀町北浜四三 酒権商店
期間 三月十五日～九月十五日 日まで
収容人数 四〇～五〇名
使用料 一泊二食付
◆父兄・職員一、五五〇円 ◆大・高・中・小学生一、二五〇円 ◆幼児一、〇五〇円(布団、食事なしのとき無料)
◆素泊七五〇円
申込方法 大学総務部庶務課(係 菅)まで申込む。

諸君が本学在学中に、これらの書物をどのように選択し読みこなすかによって、恐らく一生の読書の傾向と態度が決められてしまうといっても過言ではない。閲覧室内で騒音を発し、他に迷惑をおよぼすような人は、かの男にいわせると、大切な時間を、しかも自分のだけでなく他人の